

基礎学力と学習の意識に関する 保護者・子ども国際調査2025

概要

2026年3月12日
公益財団法人 スプリックス教育財団

調査概要

公益財団法人スプリックス教育財団（本部：東京都渋谷区／代表理事：常石 博之）は、基礎学力に対する意識の現状を把握することを目的に、「基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査2025」を実施しました。本報告では、**A) 基礎学力調査（計算テスト）**、**B) 保護者の意識調査**および**C) 子どもの意識調査の全体を総括**します。そして、世界と比較して明らかになった日本の教育環境の特徴を報告します。調査結果のポイントは以下の通りです。

■ 基礎学力（計算）

日本の計算力は比較的高いが一部の単元は定着が不足

1. 小4・中2とも比較的高い成績
2. 学年が上がると基礎の定着度が下がる
3. 分数・連立方程式に課題

■ 保護者の意識

「不満はあるが、変わりたくない」慎重な日本の保護者

1. 学校教育への満足度の低さ、情報源の不足
2. 学力向上への意欲はあるが、競争は好まない
3. ICTや生成AIの導入に慎重

■ 子どもの意識

環境は安定している一方で学習意欲とツール活用に課題

1. 家庭環境は安定しており学校の授業が丁寧
2. ロールモデルが不在で進路が未定
3. アプリの有用性の実感が薄く、生成AIの活用に遅れる

調査の背景

公益財団法人スプリックス教育財団では、教育の側面から諸問題に対する調査・研究を行い、これらの問題を社会で考える足掛かりを提供したいと考えています。

2025年に実施した本調査では、「基礎学力」、特に計算力と親子の意識に注目することで、基礎学力と子ども・保護者の意識の相関を探り、基礎学力の課題と改善方法を模索しています。

本報告では、計算力、保護者の意識、子どもの意識の結果から明らかになった世界と日本の意識の差異について報告し、日本の教育が直面する課題と今後の支援の方向性の示唆を得るものです。

調査方法

調査テーマ

基礎学力と学習の意識に関する
保護者・子ども国際調査2025

調査時期

2025年4月～8月

調査対象

11か国の小学4年生および中学2年生相当の子ども
とその保護者

調査内容

基礎学力調査（計算）、保護者の意識調査、
子どもの意識調査

調査方法

以下の2通りで実施

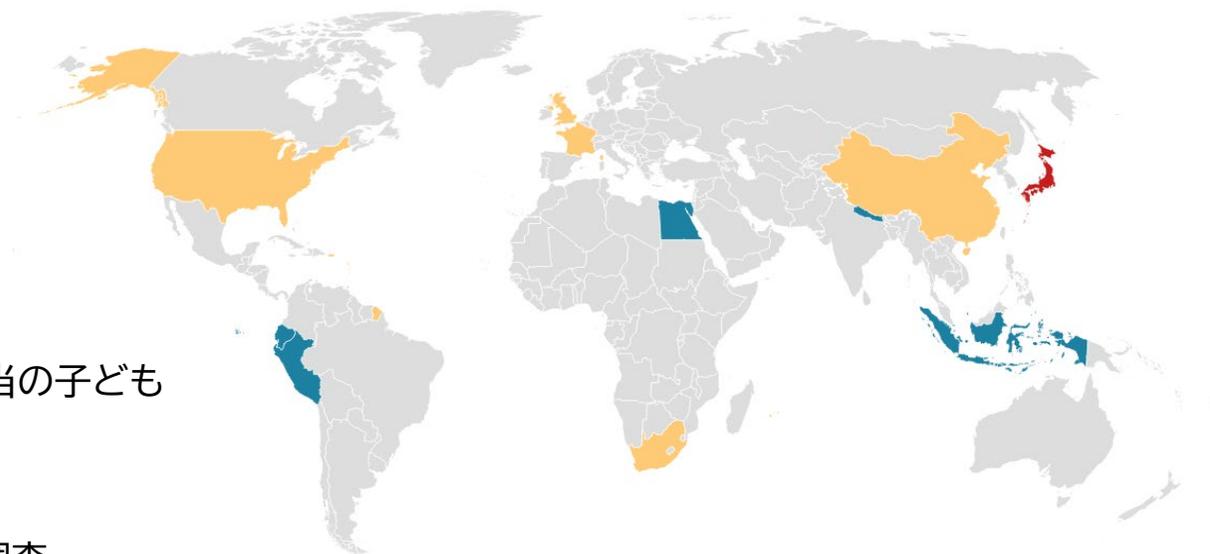
- (1) インターネットパネル調査（5か国）
- (2) 調査参加校の教室での実施（日本含む6か国）

調査主体

スプリックス教育財団が以下に委託して実施

- (1) 株式会社クロスマーケティング
- (2) 株式会社スプリックス

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。



(1) インターネットパネル調査
アメリカ、イギリス、フランス、
南アフリカ、中国



(2) 学校調査
エクアドル、ペルー、エジプト、
インドネシア、ネパール、**日本**

基礎学力と学習の意識に関する 保護者・子ども国際調査2025

A) 計算力の10か国比較

A) 計算力の10か国比較 概要

日本の計算力は比較的高いが一部の単元は定着が不足

小学4年生では「 43×2 」、中学2年生では「 $(5x-9)-(-x-4)$ 」といった基本的な計算力を問う計算テストを、10か国で実施しました。
日本の計算力の高さが示される一方で、中学2年生時点で計算力が十分に身につけていない可能性も示唆されました。

調査結果のポイント

1. 小4・中2とも比較的高い成績
2. 学年が上がると基礎の定着度が下がる
3. 小4は分数、中2は連立方程式に課題

インターネットパネル調査を実施したパネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）と、調査参加校の教室で実施した学校5か国（ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、日本）の結果の概要をご報告します。

なお、インターネットパネル調査と学校調査では計算テストの難易度は同等ですが、実施形式や解答形式が異なるため単純な比較ができないため、本レポートでは別途集計して報告いたします。

調査概要

調査対象

10か国の小学4年生および中学2年生相当の子ども（エクアドル以外）

調査方法

- (1) インターネットパネル調査 [アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国]
- (2) 調査参加校の教室での実施 [ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**]

回答サンプル数

- (1) パネル5か国合計 小学4年生：750人、中学2年生：750人（1か国1学年各150人）
- (2) 学校5か国合計 小学4年生：770人、中学2年生：472人
※学校調査のデータは匿名性保持のため、国別の調査対象数を非公表としています。

調査内容

- (1) パネル5か国：TOFASの問題を一部抜粋した短縮版（全32問）を実施。回答形式は4肢択一の選択式。
- (2) 学校5か国：国際基礎学力検定TOFASの計算テストを受験。回答形式は、選択式と記述式を併用。
例えば、小学4年生では「 43×2 」、中学2年生では「 $(5x-9)-(-x-4)$ 」といった内容が含まれます。

TOFAS（国際基礎学力検定）の詳細はこちらよりご確認ください。 <https://tof.as.education/jp/>

集計対象

国によって、同一学年で複数のレベルを受験している場合がありますが、本報告では横並び比較のため、小学4年生はレベル2、中学2年生はレベル5を受けた場合のみ集計対象としています。なお日本の小学4年生はレベル2に準ずる内容を受験していますが、一部の分野は受験内容に含みません。

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

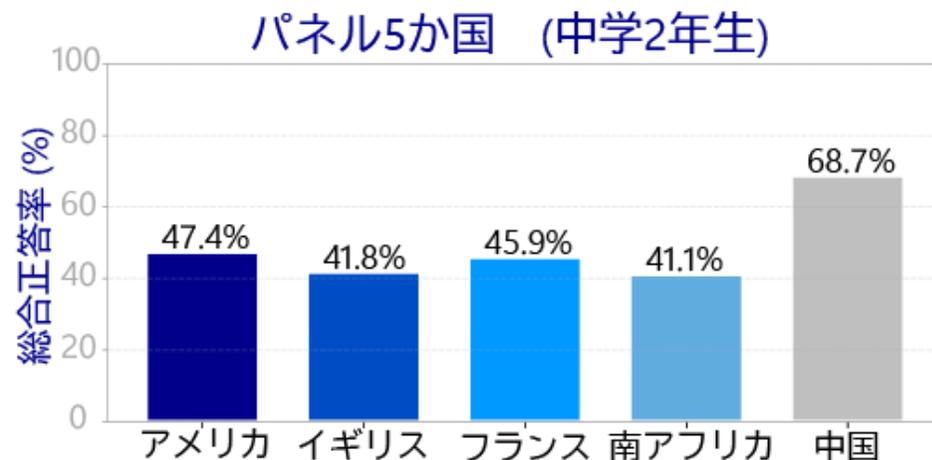
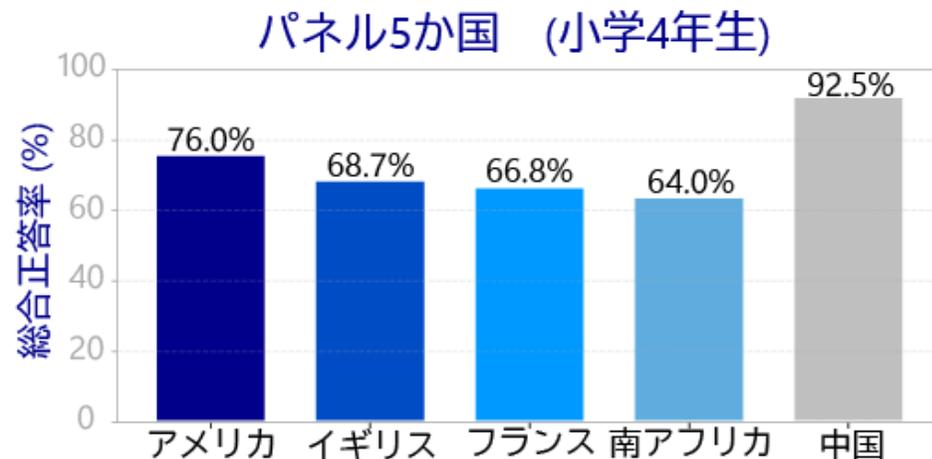
A1 総合正答率（パネル5か国）

中国が高い正答率 学年上昇に伴い正答率は低下

パネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）で小学4年生・中学2年生での計算テスト全体の総合正答率を比較しました。

いずれの学年でも、中国が比較的高い正答率を示しました。

出題範囲は既習分野の基本的な計算問題にも関わらず、中学2年生においては中国を除き総合正答率が50%に届かず、基礎的な計算力が不十分であることが示されました。



A2 総合正答率（学校5か国）

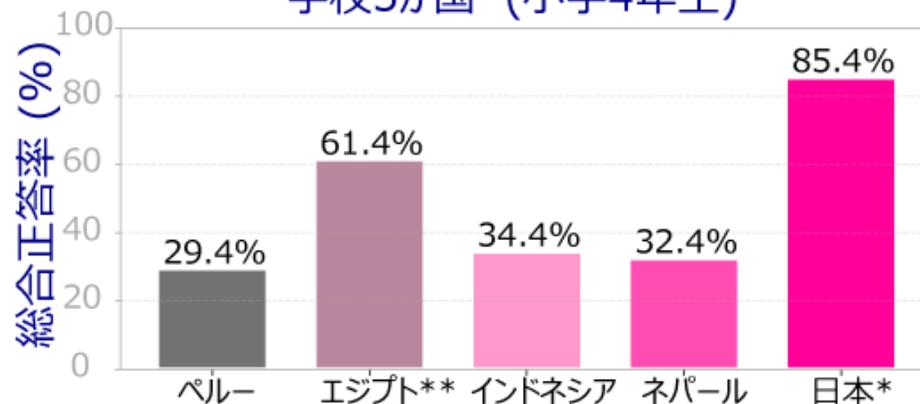
日本が高い正答率 小4時点で計算力不足な国も

学校5か国（ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**）で小学4年生・中学2年生で計算テスト全体の総合正答率を比較しました。

いずれの学年でも、**日本**は比較的高い正答率を示しました。しかし、中学2年生のほうが正答率が高い国も存在する一方で、**日本**は学年が上がると総合正答率が低下しました。

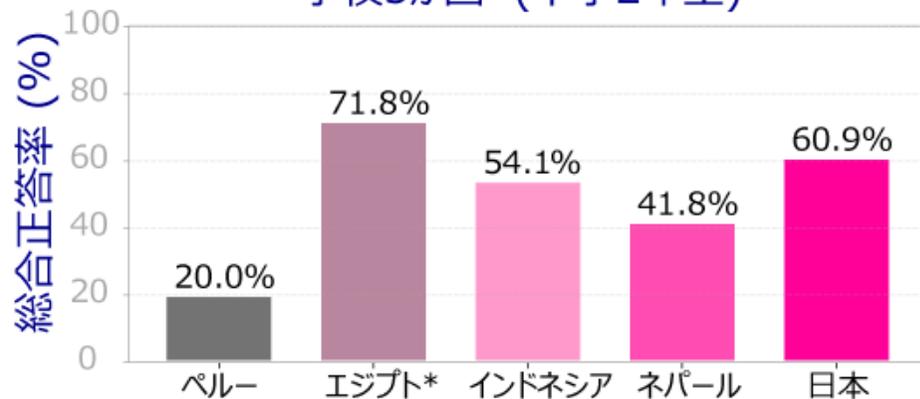
また、小学4年生でも総合正答率が50%に届かない国もあり、小学生の時点で計算力が不十分な国が存在することがわかりました。

学校5か国（小学4年生）



*日本は同等の難易度の異なる問題を受験しており、四則演算の問題なし
**エジプトは異なるレベルを受験した人も存在し、N数が少ないため参考値

学校5か国（中学2年生）



*エジプトは異なるレベルを受験した人も存在し、N数が少ないため参考値

A3 分野別正答率（パネル5か国）

小4は分数が課題

中2はすべての分野が課題

パネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）で小学4年生・中学2年生での分野別正答率を比較しました。図内の数字は国別分野別の正答率(%)を示します。

総合正答率の高い中国は、いずれの分野でも比較的高い正答率を示しました。

中国以外では、小学4年生では分数が、中学2年生ではすべての分野で正答率が**60%未満**であり、習ったことの半分ほどを理解していないまま新しい分野に進んでいることが示されました。

80%以上 60-79% 40-59% 40%未満

パネル5か国（小学4年生）

	たし算	ひき算	かけ算	わり算	分数	小数	四則演算
アメリカ	91	87	89	74	48	75	63
イギリス	85	77	83	71	46	65	50
フランス	86	72	84	64	35	65	54
南アフリカ	87	79	81	63	26	63	42
中国	94	92	95	91	86	92	96

小学校の復習 パネル5か国（中学2年生） 連立の方程式

	小学校の復習	正負の数	文字式	方程式	式の計算	連立の方程式
アメリカ	54	57	44	41	39	22
イギリス	47	48	40	36	34	26
フランス	49	57	43	44	35	22
南アフリカ	50	57	38	30	22	12
中国	73	75	66	68	61	46

*小学校の復習は、たし算・かけ算・わり算・分数・四則演算

A4 分野別正答率（学校5か国）

小4は分数が比較的苦手 中2の連立方程式が大きな課題

学校5か国（ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**）で小学4年生・中学2年生での分野別正答率を比較しました。

総合正答率の高い**日本**は、ほとんどの分野で比較的高い正答率を示しましたが、**小4**では分数で正答率80%を切り、**中2**では連立方程式で正答率40%を切り大きな課題であることがわかりました。

日本以外では、小学**4**年生ではわり算、中学**2**年生では文字式で正答率が下がり、以降の分野で正答率が上がらない傾向にあります。

—80%以上 —60-79% —40-59% —40%未満 —データなし

学校5か国（小学4年生）

	たし算	ひき算	かけ算	わり算	分数	小数	四則演算
ペルー	48	45	40	25	38	13	10
エジプト**	81	74	66	50	78	47	49
インドネシア	48	43	47	34	32	23	19
ネパール	60	50	48	26	36	14	17
日本*	92	88	84	89	78	83	-

*日本は同等の難易度の異なる問題を受験しており、四則演算の問題なし
**エジプトは異なるレベルを受験した人も存在し、N数が少ないため参考値

小学校の復習 学校5か国（中学2年生） 連立方程式

	正負の数	文字式	方程式	式の計算	方程式	
ペルー	-	42	20	30	18	10
エジプト*	-	95	85	88	82	44
インドネシア	-	76	60	62	54	42
ネパール	-	61	58	60	43	23
日本	-	82	79	72	66	39

*エジプトは異なるレベルを受験した人も存在し、N数が少ないため参考値

■ 計算力の10か国比較 まとめ

日本の計算力は比較的高いが一部の単元は定着が不足

今回の国際調査により、以下のような結果が示されました。

1. **日本**は小4・中2ともに比較的計算力が高い
2. 学年が上がると基礎の定着度が下がる
3. 小4は分数、中2は連立方程式に課題

計算力という基礎的な学力の時点で国による差が存在することが明らかになりました。特に、小学**4**年生の時点でわり算や分数に課題を抱えた国は、中学**2**年生の正答率も低い傾向にあります。**日本**は全体的な正答率は比較的高いものの、連立方程式に課題があります。

既習分野の復習といった振り返り学習の必要性を示唆する結果となりました。

基礎学力と学習の意識に関する 保護者・子ども国際調査2025

B) 保護者の意識調査

B) 保護者の意識11か国調査 概要

「不満はあるが、変わりたくない」 慎重な日本の保護者の意識

小学4年生と中学2年生の保護者を対象に、基礎学力や学校教育、ICTの利活用状況などを世界11か国で調査しました。本調査により、日本の保護者は、学校教育や子の学力に不満を感じる一方で、競争やICTツールの導入には慎重であるという傾向が明らかになりました。

調査結果のポイント

1. 学校教育への満足度の低さ、情報源の不足
2. 学力向上への意欲はあるが、競争は好まない
3. ICTや生成AIの導入に慎重

インターネットパネル調査を実施したパネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）と、調査参加校の教室で実施した学校6か国（エクアドル、ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**）の結果の概要をご報告します。

なお、学校調査の保護者の回答は任意のため、国や学年によりサンプル数が異なりますが、本報告では単純に合計したものを示します。国別、学年別の回答については弊財団HPより資料申請が可能ですのでお問い合わせください。

調査概要

調査対象

11か国の小学4年生および中学2年生相当の保護者

※本リリースでは、保護者は小学4年生相当・中学2年生相当の合計を基に報告しています。一部の設問の学年別データは、弊財団HPより入手いただけます。

調査方法

- (1) インターネットパネル調査 [アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国]
- (2) 調査参加校からの依頼で実施 [エクアドル、ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**]

回答サンプル数

日本以外 2038人、 日本 約300人

※日本のデータは匿名性保持のため、具体的な調査対象数を非公表としています。

調査内容

以下のテーマについて、オンラインの多肢選択式で質問

子の学習活動 / 子の将来 / 子の教育 / ICTを用いた学習 / 生成AI

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

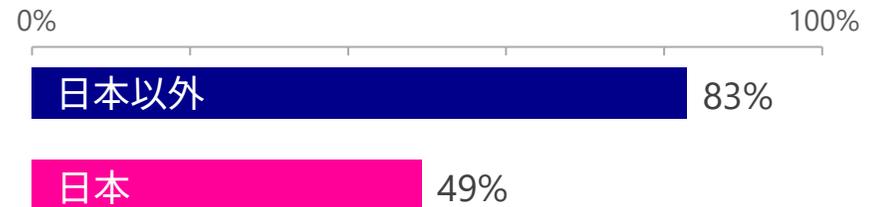
B1 子の学習活動

子どもの学力に満足する世界、 子どもの学力は不満だが競争には否定的な日本

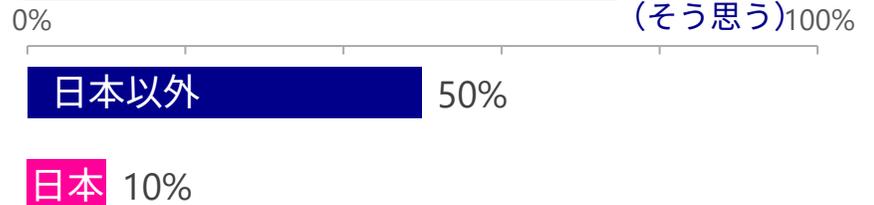
日本以外の保護者は、80%以上が学校の授業で十分な学力がつくと考えています。また、半数の保護者は子どもの学力にも満足しています。

対して日本の保護者は、学校の授業だけで十分と考える親は半数を下回っています。さらに、子どもの現在の学力に対する満足度も10%と非常に低いことがわかりました。その一方で、競争には日本以外の保護者よりも慎重な姿勢が見られます。

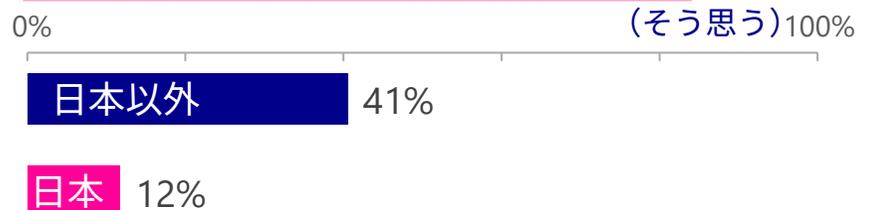
学校の授業で十分な学力がつく



現在の子どもの学力に満足している

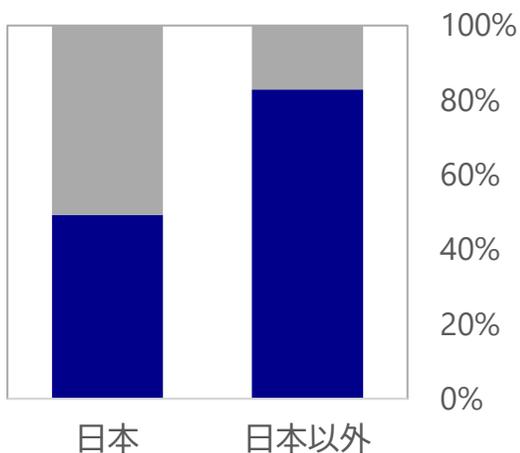


もっと勉強するために順位を競うべきだ



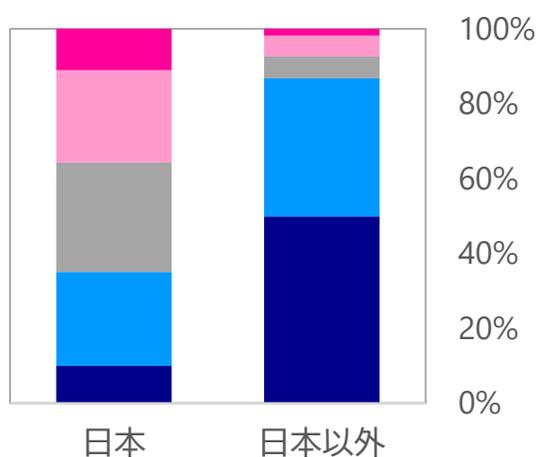
B1 子の学習活動（詳細データ）

学校の授業で十分な学力がついている（択一）【保護者】



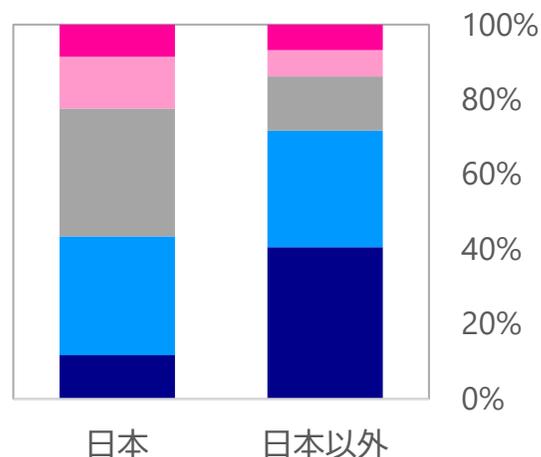
■ はい ■ いいえ

お子さまの学力に関して、現在の学力に充分満足している（択一）【保護者】



■ そう思わない
■ あまりそう思わない
■ どちらともいえない
■ ややそう思う
■ そう思う

お子様がもっと勉強するために、ほかの人と順位を競うべきだ（択一）【保護者】



■ そう思わない
■ あまりそう思わない
■ どちらともいえない
■ ややそう思う
■ そう思う

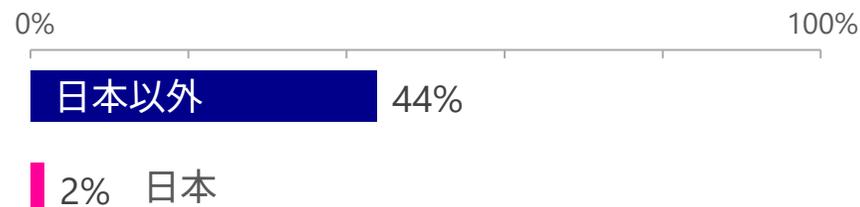
B2 子の将来

成功と高学歴を求める世界、 出世よりも自立を願う日本

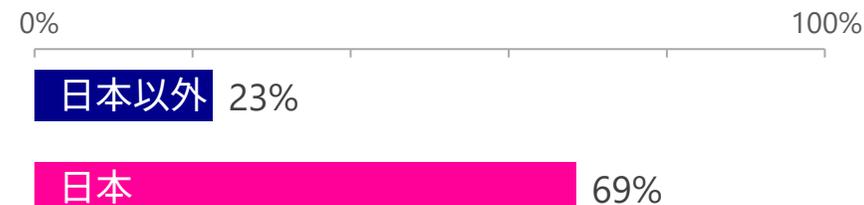
日本以外の保護者は、半数近くが大学院進学を期待しており、「リーダーシップ」を子どもに期待する保護者も日本と比べると多く、子どもを社会貢献の担い手と捉える傾向が見られます。

対照的に、日本の保護者は大学院進学への期待は極めて低く、将来像としては、自分の考えをしっかりと持つ「自立した個人」であることを2/3以上が重視しています。

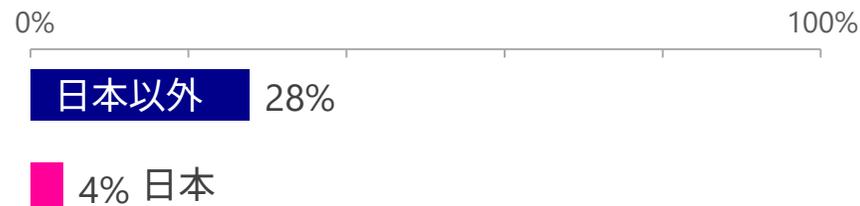
大学院まで進学させたい



自分の考えをしっかりと持ってほしい

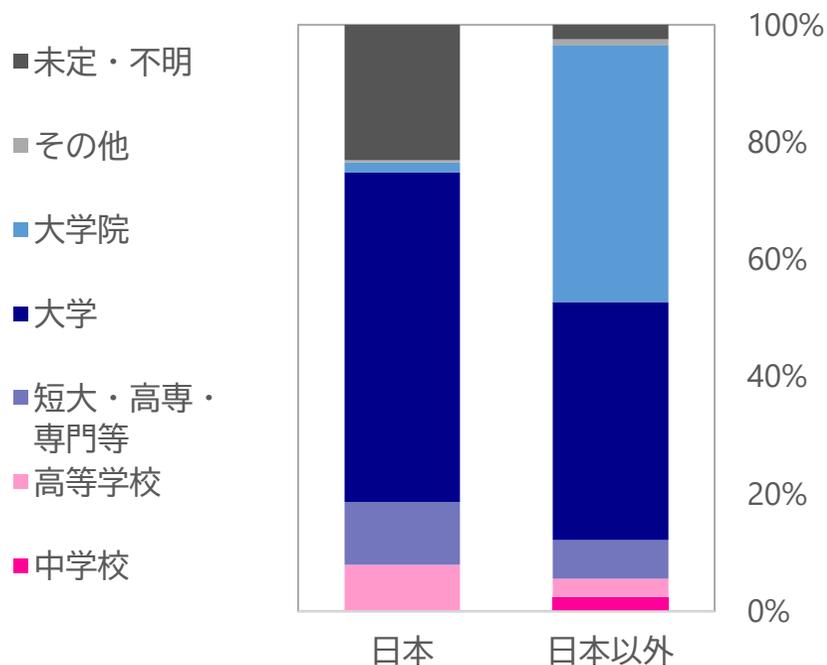


リーダーシップを発揮する人になってほしい

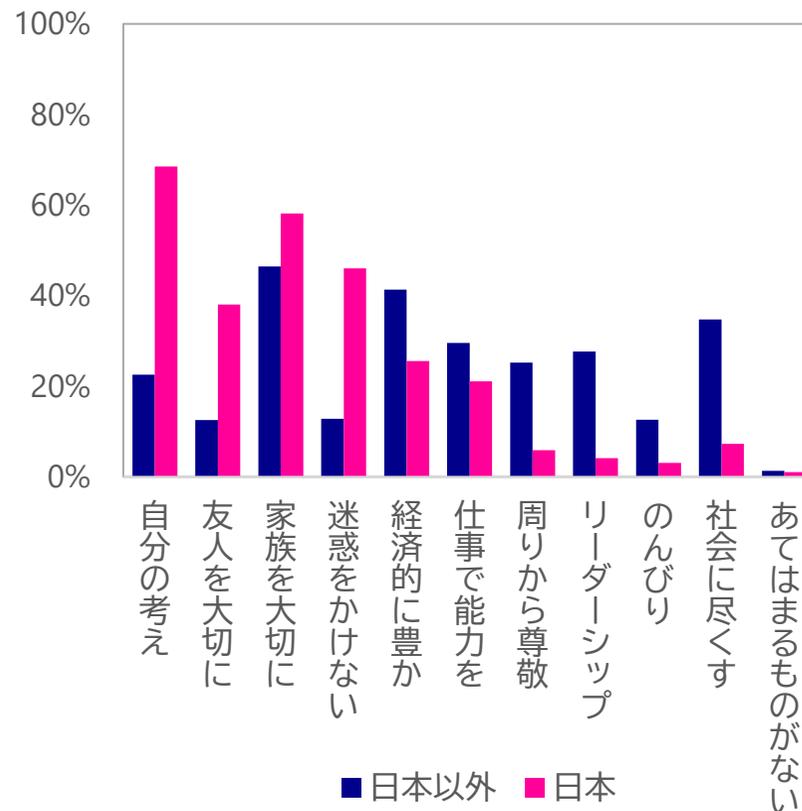


B2 子の将来（詳細データ）

お子様を、どの学校まで進学させたいとお考えですか。（択一）【保護者】



お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。（1つ以上3つまで）【保護者】



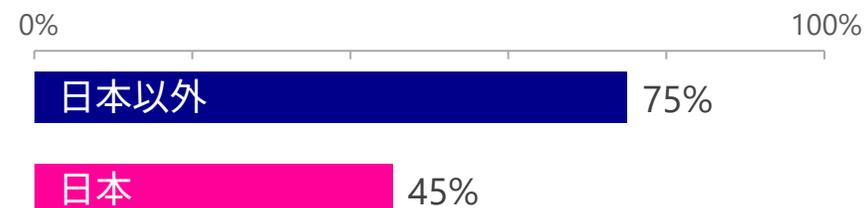
B3 子の教育情報

学校の先生を頼りにする世界 信頼できる情報源に乏しい日本

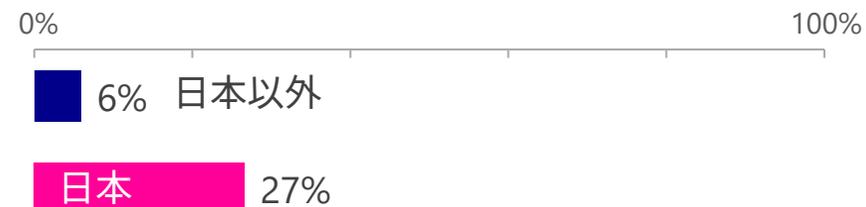
教育情報の入手先として、**日本以外**の保護者は「学校の先生」といった「人」への相談が多く、さらに書籍や雑誌といった媒体も活用しています。

対照的に**日本**の保護者は、学校の先生に相談する割合が相対的に少なく、また「情報を得る媒体が特にない」と回答する層が**日本以外**に比べると多いのが特徴です。

教育の情報源が「学校の先生」

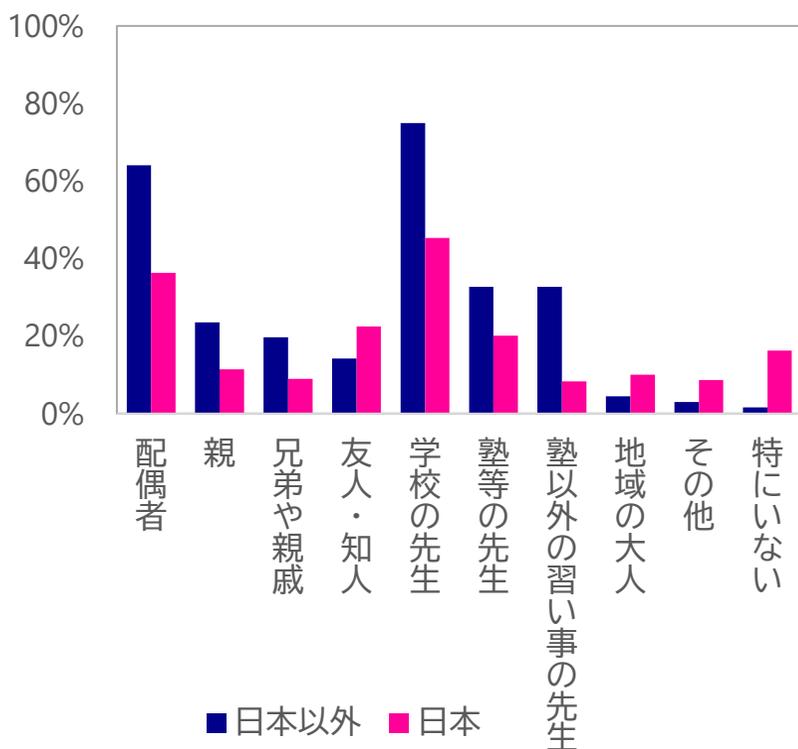


教育の情報源となる媒体が「特にない」

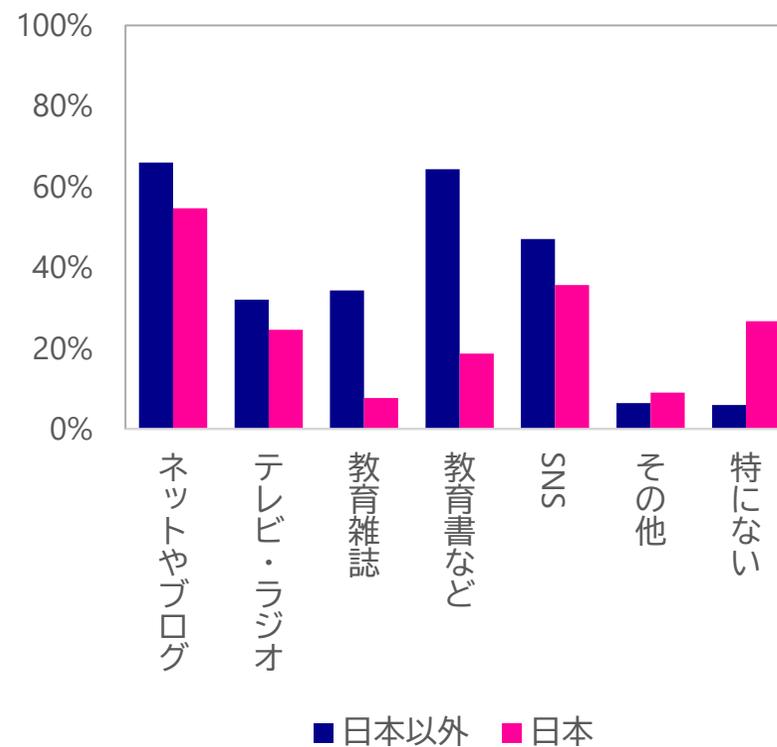


B3 子の教育情報（詳細データ）

お子様の教育についての情報を、誰から得ていますか。（複数選択）【保護者】



お子様の教育についての情報を、どこから得ていますか。（複数選択）【保護者】



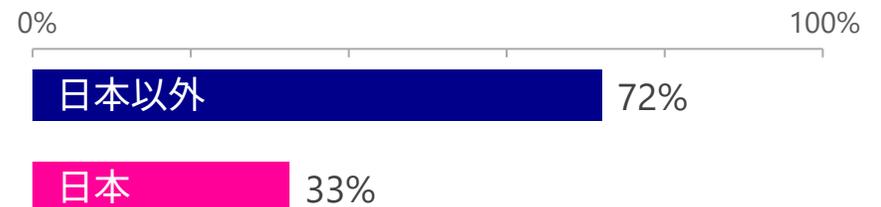
B4 ICTを用いた学習

幼少期からデジタル活用を始める世界 デジタル学習に慎重な日本

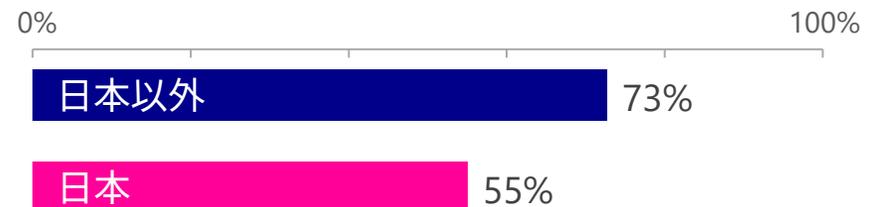
日本以外の保護者の72%は、小学校入学前からスマホ・タブレットを学習に利用しています。また、「効率的に学習する」ことを73%が重要視しています。

対照的に、日本の保護者が小学校入学前にデジタル学習を取り入れている家庭は33%と少数派です。「効率的な学習」を重視する割合も日本以外に比べて低い傾向がうかがえます。

小学校入学前の学習アプリ利用「あり」

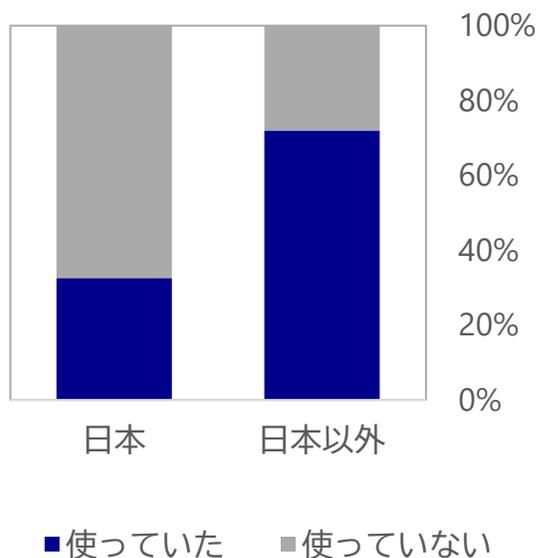


効率的に勉強できることは重要である



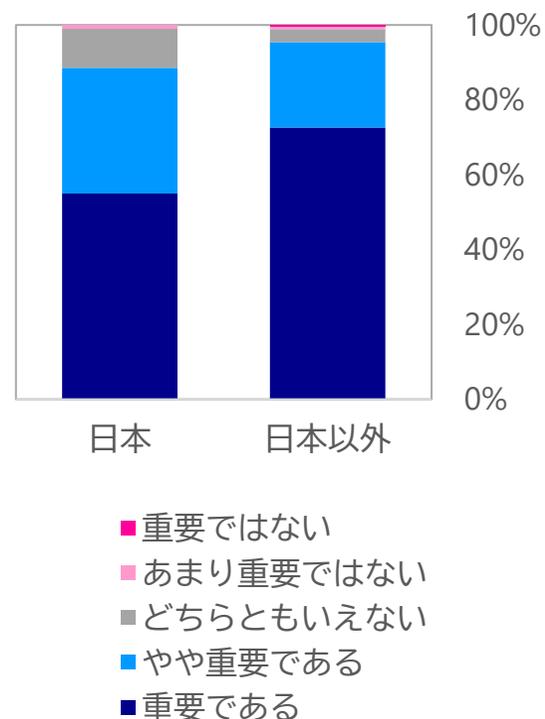
B4 ICTを用いた学習（詳細データ）

お子様は、小学校入学前にスマホやタブレットを用いて学んでいたことがありますか。
（択一）【保護者】



※実際の質問票では、「ある場合は、各時期において使用していたアプリの主な利用目的を教えてください。」と質問している。「使っていた」は具体的な利用目的を選択した数の合計。

基礎的な勉強を身に着けるのに、効率的に勉強できることは重要ですか。（択一）【保護者】



B5 生成AI

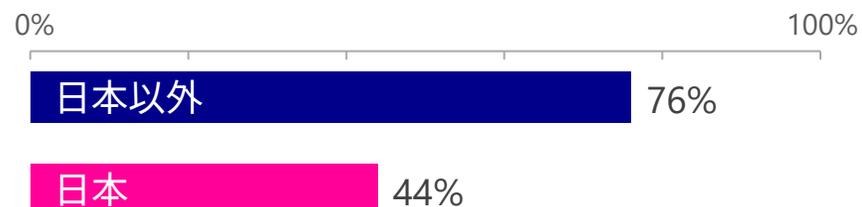
生成AIの利用に出遅れる日本 子どもの利用に慎重

日本以外の保護者は、すでに**76%**が生成AIを利用した経験を持っており、実生活に浸透しつつある様子が見えます。

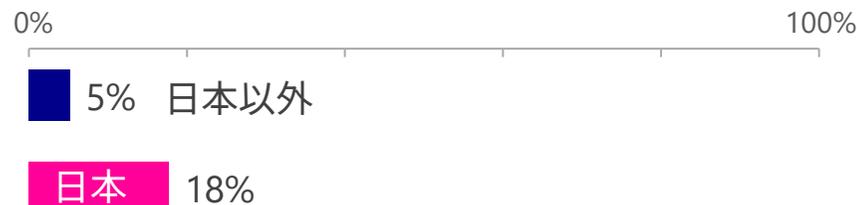
対照的に、日本の保護者は「名前は知っているが使ったことはない」が多く、利用経験者は半数を下回ります。

また、子どもが生成AIを利用することについても、日本の保護者は「わからない」という回答が日本以外と比べて多い傾向にあります。

生成AIを使ったことがある

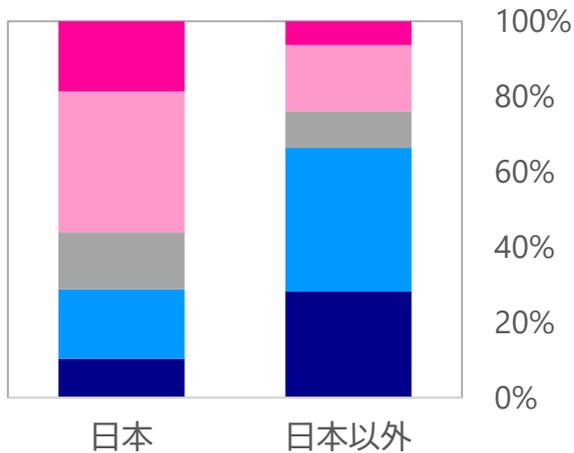


子どもに生成AIを勧めるか「わからない」



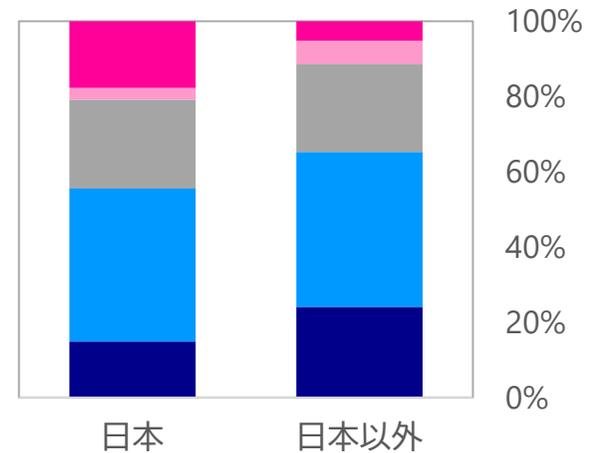
B5 生成AI（詳細データ）

生成AIを使ったことがありますか。（択一）【保護者】



- わからない、知らない
- 使ったことはないが名前は知っている
- 試しに使ったことがある
- 時々使っている
- よく使っている

お子様に生成AIを使ってほしいと思いますか。（択一）【保護者】



- わからない
- まったく使ってほしくない
- あまり使ってほしくない
- 少し使ってみてほしい
- 積極的に使ってほしい

保護者の意識11か国調査 まとめ

現状への不安はあるものの、競争は避けたい。 デジタルの導入には慎重な姿勢を見せる日本の保護者

今回の国際調査により、日本の保護者について以下のような結果が示されました。

1. 学校教育への満足度の低さ、情報源の不足
2. 学力向上への意欲はあるが、競争は好まない
3. ICTや生成AIの導入に慎重

国際的には日本の小中学生の計算力は高いのですが（A節参照）、日本の保護者は子どもの学力に満足していない傾向にあります。学校教育に不満はあるものの、競争やデジタルツールの導入には慎重な姿勢を示します。

日本の保護者は「現状に不満はあるものの、大きな変化は避けたい」といった慎重な姿勢が子の教育において存在することが示唆されました。

基礎学力と学習の意識に関する 保護者・子ども国際調査2025

c) 子どもの意識調査

C) 子どもの意識10か国調査 概要

環境は安定している一方で 学習意欲とツール活用に課題

小学4年生と中学2年生の児童・生徒を対象に、家庭環境や勉強の意識、学校内外での学習経験やICTの利活用状況などを世界10か国で調査しました。本調査により、日本の小中学生の家庭や学校の環境は良好である一方で、ロールモデルの不在やICTの有用性の実感が薄い等の課題が明らかになりました。

調査結果のポイント

1. 家庭環境は安定しており学校の授業が丁寧
2. ロールモデルが不在で進路が未定
3. アプリの有用性を感じられず、生成AIの活用に遅れる

インターネットパネル調査を実施したパネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）と、調査参加校の教室で実施した学校5か国（ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**）の結果の概要をご報告します。

なお、学校調査の子どもの回答は任意のため、国や学年によりサンプル数が異なりますが、本報告では単純に合計したものを示します。国別、学年別の回答については弊財団HPより資料申請が可能ですのでお問い合わせください。

調査概要

調査対象

10か国の小学4年生および中学2年生相当の児童・生徒

※本リリースでは、小学4年生相当を中心に報告しています。中学2年生相当のデータについては、弊財団HPより入手いただけます。

調査方法

- (1) インターネットパネル調査 [アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国]
- (2) 調査参加校からの依頼で実施 [ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、**日本**]

回答サンプル数

小学4年生 日本以外 1072人、 日本 約400人

中学2年生 日本以外 1025人、 日本 約100人

※日本のデータは匿名性保持のため、具体的な調査対象数を非公表としています。

調査内容

以下のテーマについて、オンラインの多肢選択式で質問

家庭環境の把握 / 勉強の意識 / 将来の展望 / 学習での経験 / 学校での勉強 / 学外学習 / ICTを用いた学習 / 生成AI

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

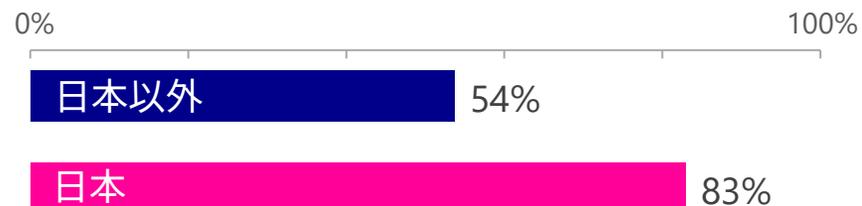
C1 家庭環境の把握

日本の家庭は安定しているが 学歴の話はしない

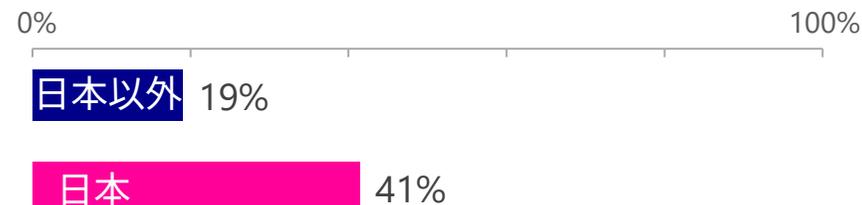
日本の子どもは、家で事情があって勉強や生活を妨げられている家庭が少なく、平穏で安定した環境にいます。

その一方で、親の最終学歴を「知らない」と答える割合が41%と圧倒的に高く、日本以外の子どものおお半が親の学歴を把握しているのとは対照的です。

家で事情があることによる勉強や生活への妨げは特にな

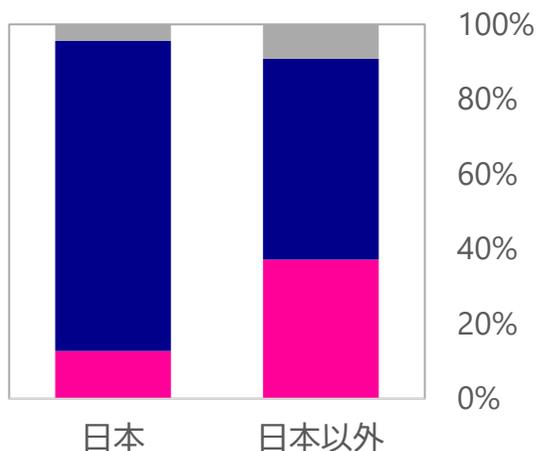


父親の卒業した学歴を知らない



C1 家庭環境の把握（詳細データ）

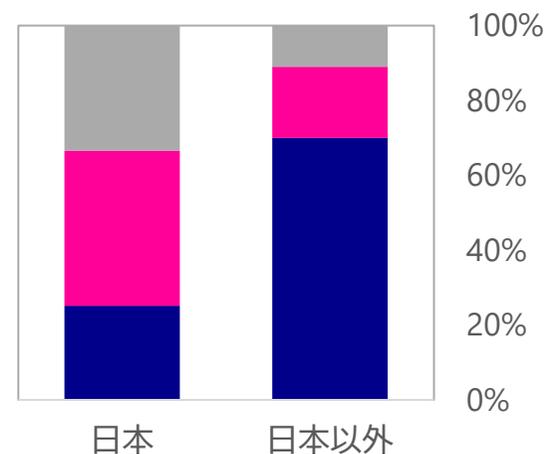
家で事情があって、次のことがよく起こっていますか？（複数選択） [小学4年生相当]



- 答えたくない
- 特にない
- 妨げがある

※実際の質問票では、「家で事情がある」を家事、育児、介護、家の仕事等と定義した上で、妨げとして「学校に行けない/学校に遅刻・早退する/勉強する時間がない/睡眠不足/遊べない/部活や習い事ができない/進路変更を余儀なくされた/自分の時間がない」から複数選択としています。

あなたのお父さんが最後に卒業した学校を知っていますか。（択一） [小学4年生相当]



- わからない
- 知らない
- 知っている

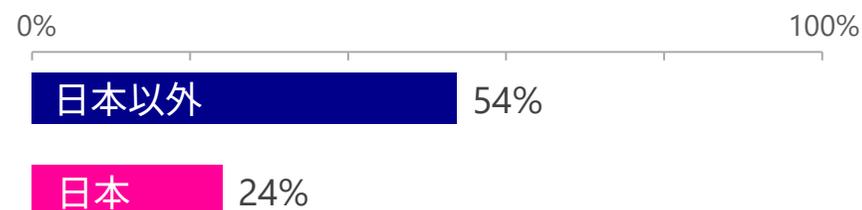
C2 勉強の意識

世界の学ぶ動機は「知的好奇心」 日本は実利優先

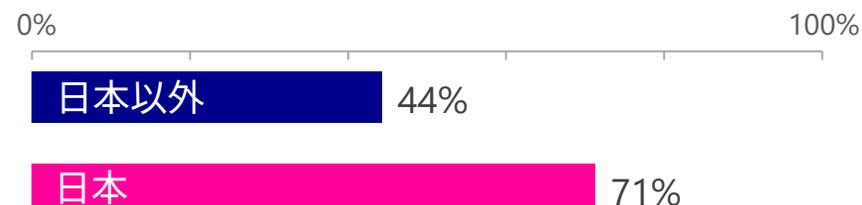
日本以外の子どもは「勉強すること自体が好き」と54%が回答するなど、**日本**に比べて知的好奇心や楽しさを動機に学ぶ傾向があります。

一方、**日本**の子どもは、勉強自体が好きな子どもは24%と少ないものの、「ふだんの生活に役立つ」と**71%**が回答しました。実利や規範意識を理由に勉強している割合が**日本以外**と比べると高い傾向にあるといえます。

勉強すること自体が好き (そう思う)

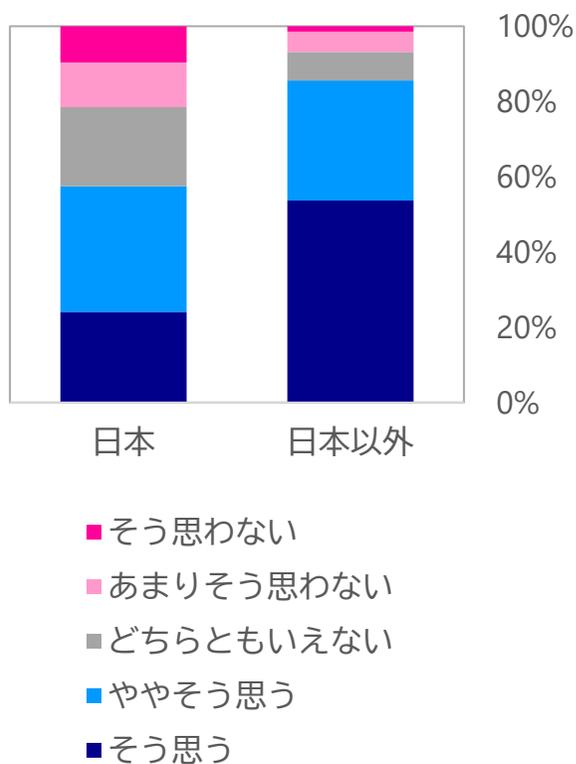


勉強する理由は「ふだんの生活に役立つ」

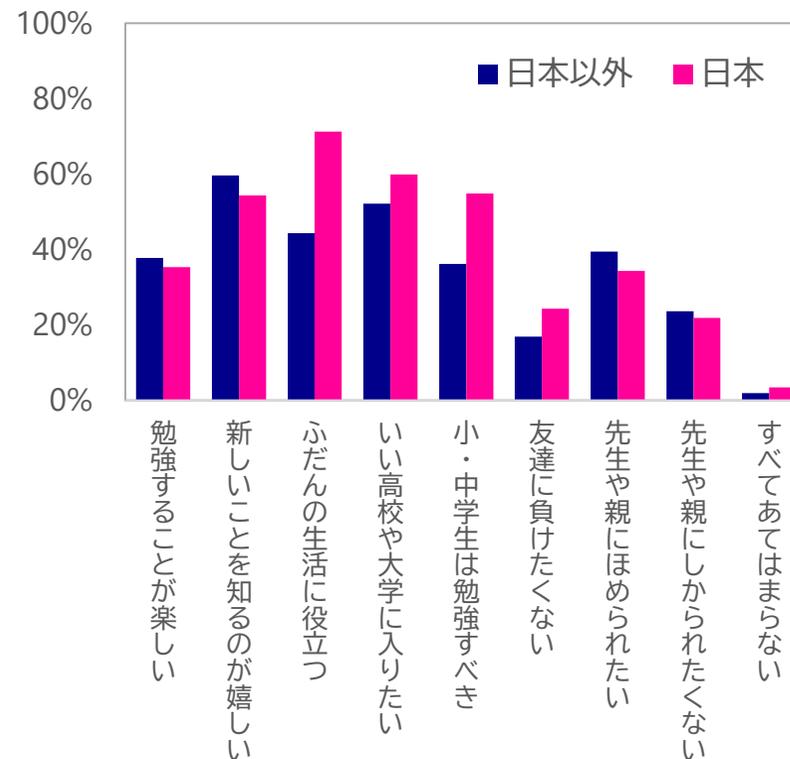


C2 勉強の意識（詳細データ）

「勉強すること自体が好き」について、あなたはどの程度そう思いますか。（択一）[小学4年生相当]



勉強する理由について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択）[小学4年生相当]



C3 将来の展望

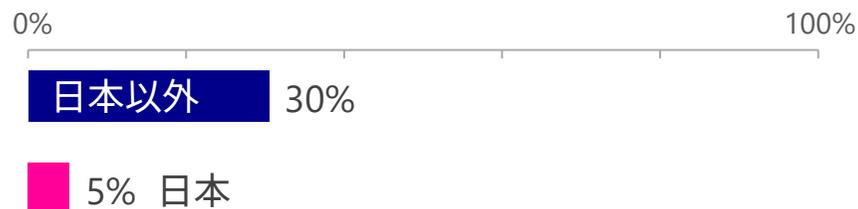
親の影響で高学歴を目指す世界 相談できず迷う日本

日本以外の子どもの**30%**が「大学院」までの進学を希望しています。

対照的に、**日本**の子どもは**44%**が「進路は決まっていない」と回答し、大学院進学を希望する割合は**5%**と極めて低くなっています。

また、日本の子どもは進路について参考になる人が**日本以外**と比べて少ない傾向にあります。

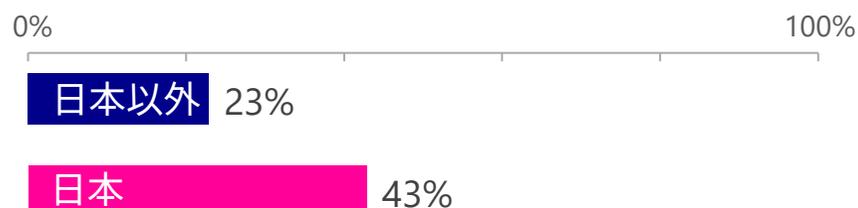
大学院まで進学するつもりだ



どの学校まで進学するつもりか決まっていない

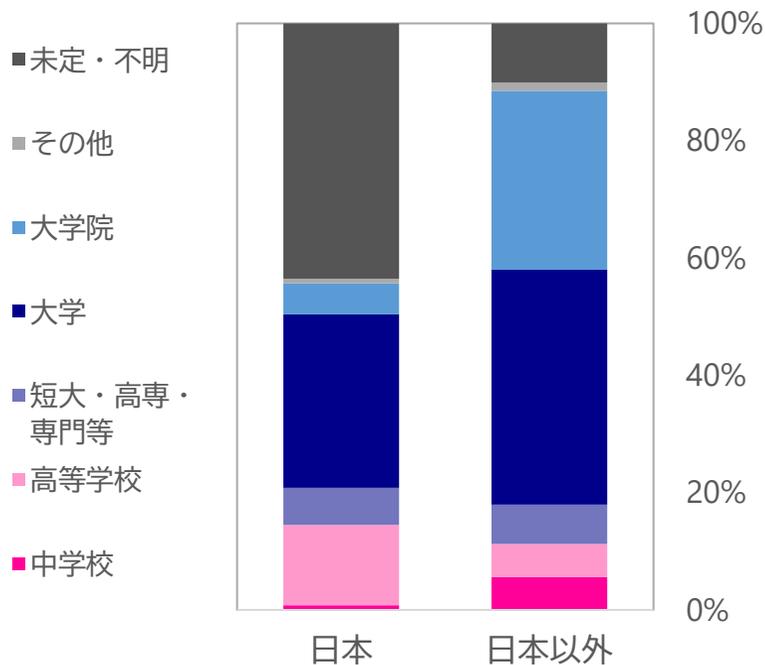


進路を考える時、参考になる人がいない

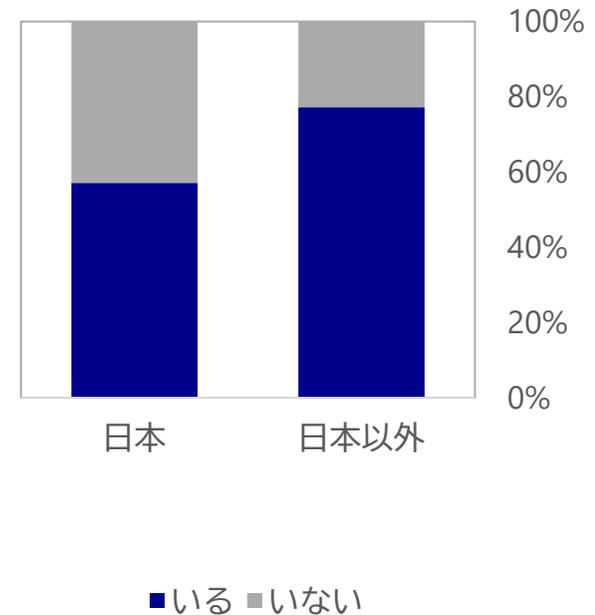


C3 将来の展望（詳細データ）

あなたは、どの学校まで進学するつもりですか。（択一）[小学4年生相当]



学校の進路を考える際、参考となったり、強く影響を受けていると感じる人がいますか。（択一）[小学4年生相当]



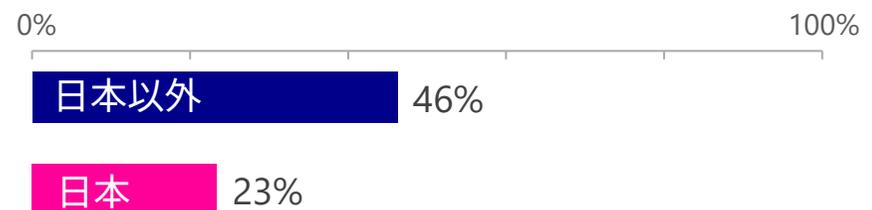
C4 学習での経験

先生に褒められる経験に乏しい日本 自分の学力レベルの把握も不十分

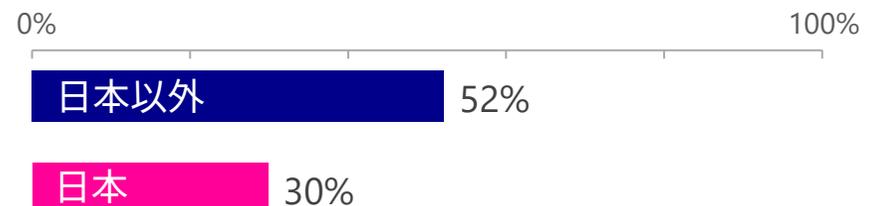
日本以外の子どもは、勉強に関して「先生に褒められた」経験が日本の子どもを大きく上回りました。また、学校内での自分の学力レベルを把握している割合も日本と比べると高いのが特徴です。

逆に言えば、日本の子どもは、先生から褒められた経験が少なく、また自分の学力レベルの把握も乏しい傾向にあります。

先生に勉強を褒められた経験がある

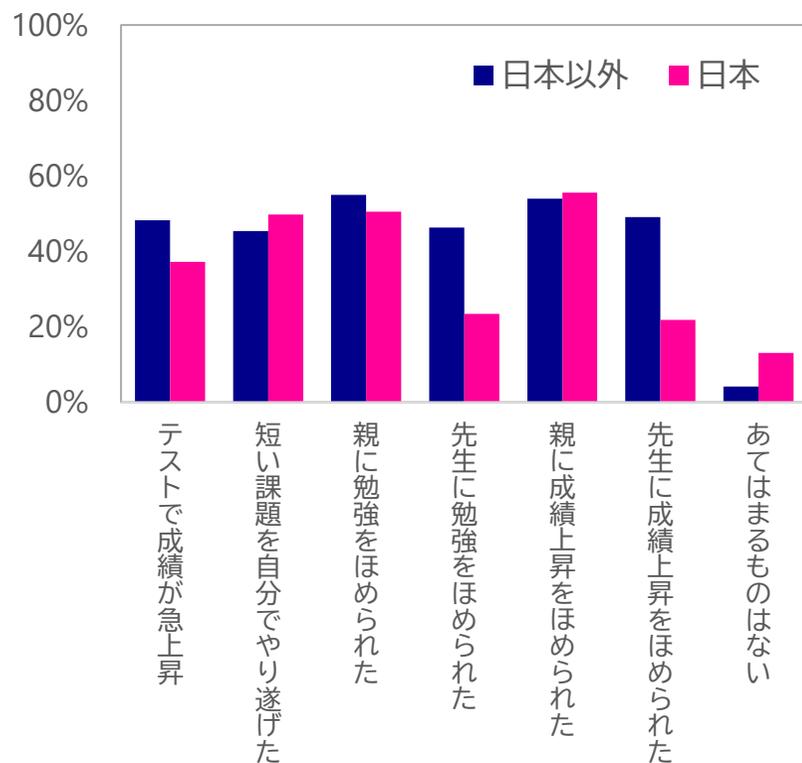


学校内の自分の学力レベルを把握している

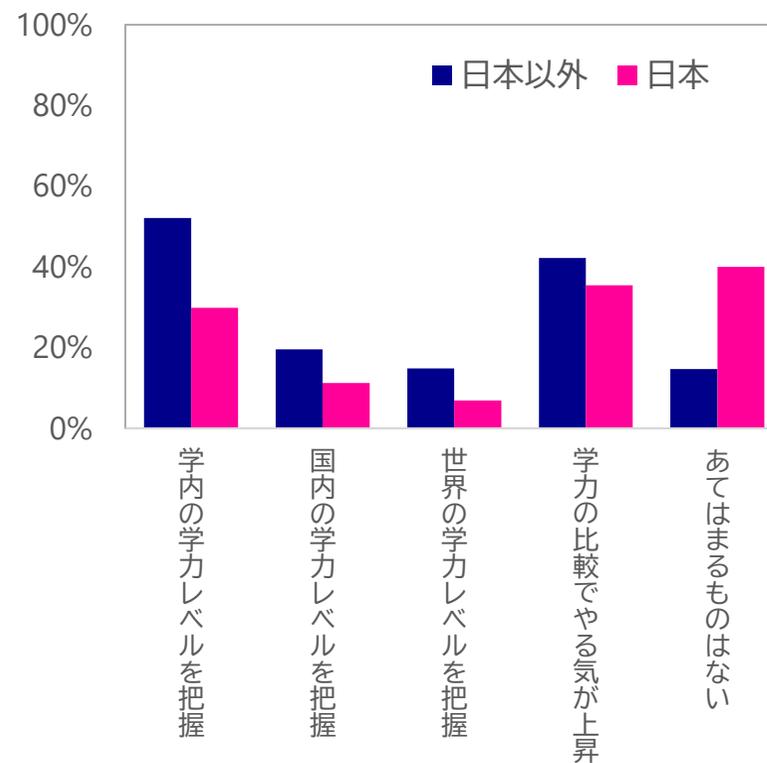


C4 学習での経験（詳細データ）

家や学校、塾などで勉強するとき、以下の経験がありますか。（複数選択）[小学4年生相当]



あなたの学力について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択）[小学4年生相当]



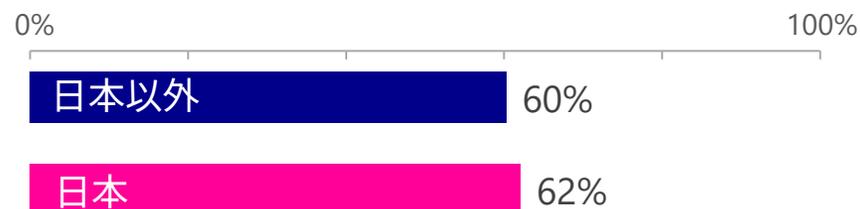
C5 学校での勉強

日本も世界も子どもは学校の授業を信頼 日本の子どもも授業の丁寧さを実感

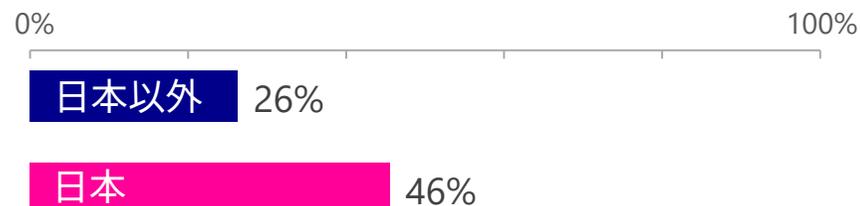
日本でも日本以外でも、60%以上の子どもが「学校の授業は理解に役立っている」と感じています。

しかし、授業の進め方については、日本の子どもが「不明点を残さず進む」と評価する割合が日本以外を上回っており、授業の丁寧さに対する信頼の厚さが際立っています。

学校の授業は算数の理解に役立つ

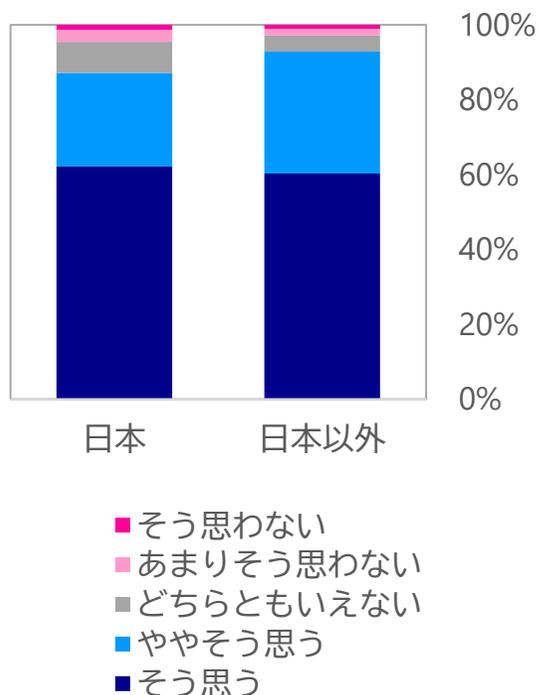


算数の授業で不明点を残さず進む

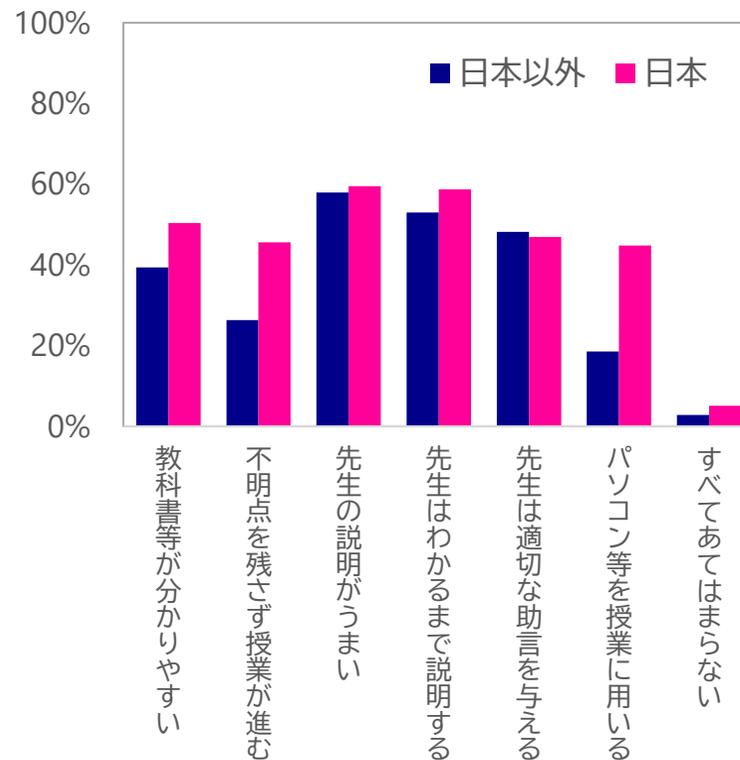


C5 学校での勉強（詳細データ）

学校の授業は算数・数学の理解に役立っていると感じますか。（択一） [小学4年生相当]



算数・数学の授業に関して、あなたにあてはまるものをすべて選んでください。（複数選択） [小学4年生相当]



C6 学外学習

毎日の宿題をこなすが 家庭の学習時間は少ない**日本**

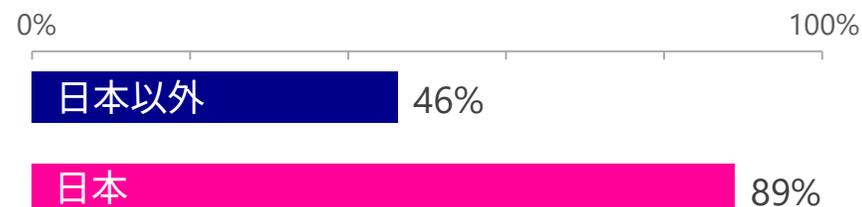
日本以外の子どもは、宿題の頻度は**日本**よりは少ないものの、学外学習などで平日に4時間以上勉強する子どもも約**4**人に**1**人と少なくありません。

一方、**日本**の子どもは、学校から宿題が「毎日出される」割合が**89%**と極めて高いにもかかわらず、平日の勉強は**30**分から1時間程度で比較的短時間になっています。

学校以外で1日当たり4時間以上勉強する・平日

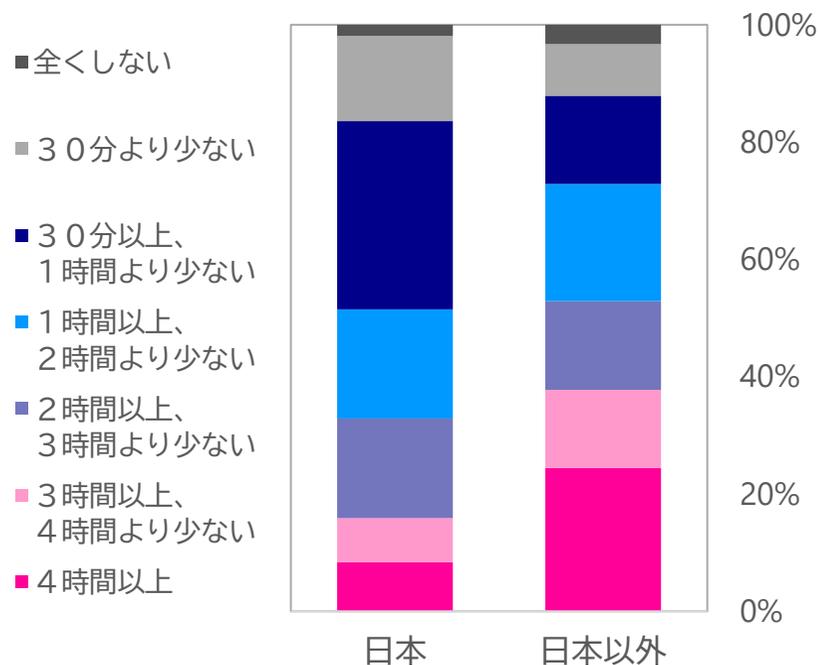


学校の宿題が毎日出される

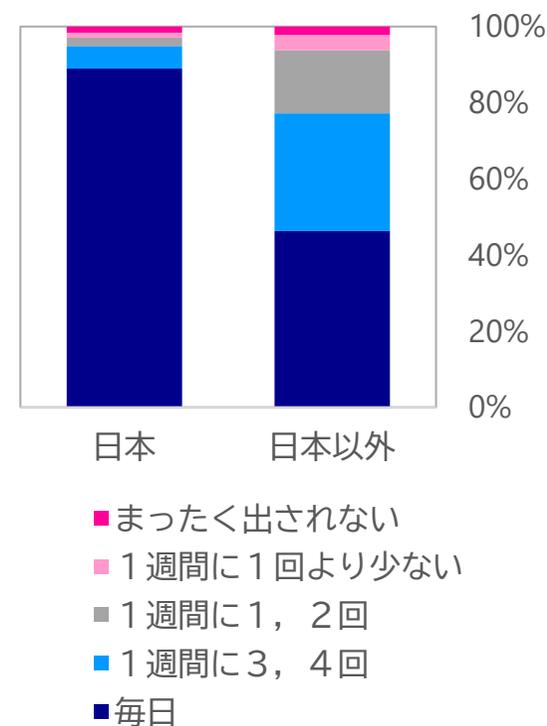


C6 学外学習（詳細データ）

学校の授業時間以外の、1日あたりの勉強時間を教えてください。／普段（月曜日から金曜日）（択一）[小学4年生相当]



学校の宿題は、どのくらい出されますか。（択一）[小学4年生相当]



C7 ICTを用いた学習

学習アプリを使う頻度は変わらないが 効果の実感が薄い**日本**

日本でも**日本以外**でも、オンライン学習や算数の演習などの学習アプリを**8割**程度の子どもが使用しています。

ただし**日本**の子どもは「役に立っているアプリはない」と回答する割合が**日本以外**と比べて高く、アプリ学習の有用性を感じている割合が小さいことが特徴です。

勉強のためにアプリを使ったことがある (「使ったことがない」以外)

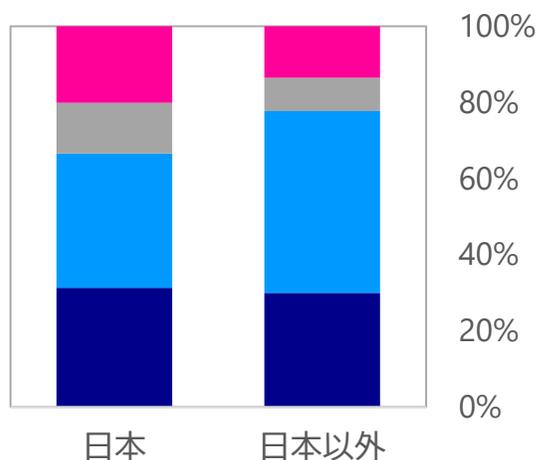


成績アップに役立っているアプリはない



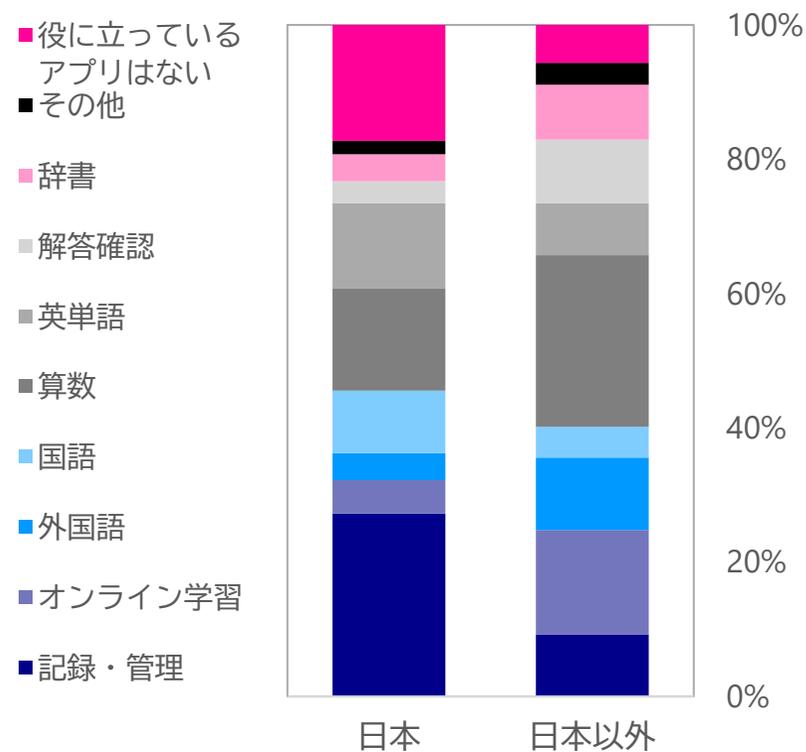
C7 ICTを用いた学習（詳細データ）

あなたは、勉強のためにスマホやタブレットでアプリをどのくらい使っていますか。（択一） [小学4年生相当]



- 全く使ったことがない
- 試しに使ったことがある
- 時々使っている
- よく使っている

あなたが使っているアプリの中で、成績アップに最も役立っているアプリはどれだと思いますか。（択一） [小学4年生相当]



C8 生成AI

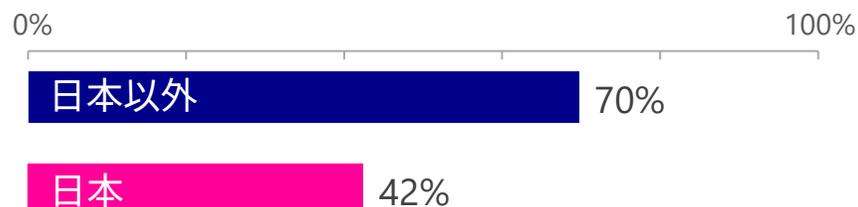
生成AIを学習での疑問解決に活用する世界 利用経験が少ない日本

日本以外の子どもは、**70%**が生成AIを利用した経験を持ち、学習の疑問解決やアイデア出しなど、多様な場面で活用しています。

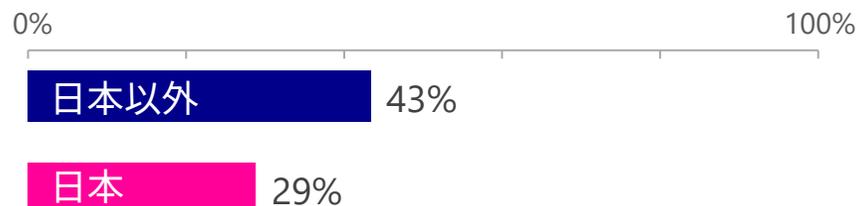
一方、**日本**の子どもは、生成AIを「使ったことがある」割合が**42%**と半数を切っており、利用率が**日本以外**に比べて顕著に低くなっています。

※本調査は2025年4月～8月に実施したものです。

生成AIを使ったことがある

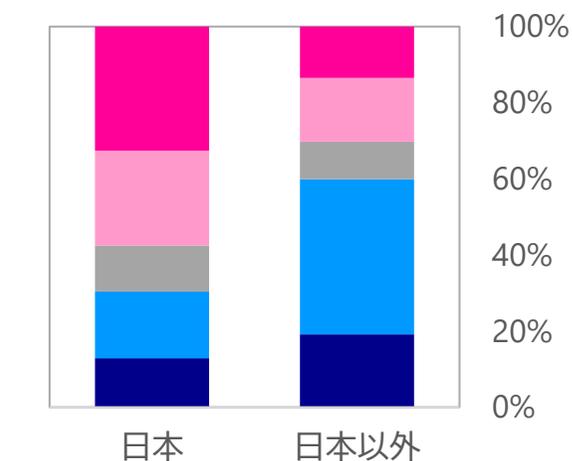


生成AIを学習での疑問解決などに使う



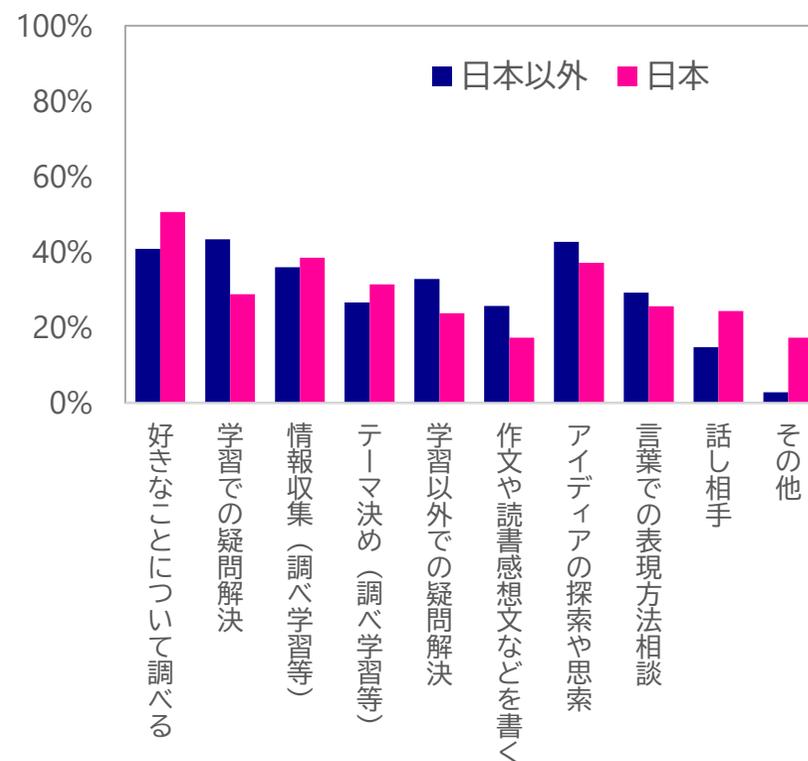
C8 生成AI（詳細データ）

あなたは、生成AIを使ったことがありますか。（択一） [小学4年生相当]



- わからない、知らない
- 使ったことはないが名前は知っている
- 試しに使ったことがある
- 時々使っている
- よく使っている

あなたは生成AIをどのような場面で使用していますか。（複数選択） [小学4年生相当]



子どもの意識10か国調査 まとめ

日本の家庭や学校の環境などの教育基盤は安定 学習意欲やICTの活用に課題

今回の国際調査により、**日本**の子どもについて以下のような結果が示されました。

1. 家庭環境は安定しており学校の授業が丁寧
2. ロールモデルが不在で進路が未定
3. アプリの有用性を感じられず、生成AIの活用に遅れる

日本の子どもの高い計算力は、安定した家庭環境や、丁寧な授業と頻度の高い宿題などに支えられている可能性があります。一方で、将来の進路に未定が多く参考になる人が少ない等、学習の目標が不明瞭な一面や、学習アプリや生成**AI**の学習への活用に遅れている面などの課題が浮き彫りとなりました。

総括

本調査では、「安定した家庭環境」「学校教育の充実」が日本の高い計算力を支えている可能性が示唆されました。その一方で、今後の課題として「苦手分野の克服」「情報源やロールモデルの不足」「ICTや生成AIの活用」が浮き彫りとなりました。

■ 計算力

日本の計算力は比較的高いが
中学生の連立方程式が懸案

■ 保護者の意識

「不満はあるが、変わりたく
ない」慎重な日本の保護者

■ 子どもの意識

日本の教育基盤は安定
学習意欲とツール活用に課題

スプリックス教育財団のHPでは、本報告では省略した設問と回答や、中学2年生の回答率も示した「資料編」を配布しています。

本報告は、「基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査2025」に基づく第10回目の報告です。今後もスプリックス教育財団では、子どもの基礎学力に関して様々な分析を進めてまいります。

備考

「国名」での比較

学校調査（エクアドル、ペルー、エジプト、インドネシア、ネパール、日本）では、回答者はランダムに抽出されたものではありません。そのため、便宜上「国名」として記載していますが、特定の地域や学校の結果であることにご留意ください。

学力調査と意識調査の関係

パネル調査においては、学力調査・保護者の意識調査・子の意識調査全て同一の親子に実施しています。

学校調査においては、学力調査・保護者の意識調査・子の意識調査のうち、一部のみ回答した人、全てに回答した人の両方を含みます。特にエクアドルは、保護者の意識調査のみに参加しており、学力調査と子の意識調査の結果はありません。

調査方法の詳細

- (1) 調査会社（株式会社クロス・マーケティング）が実施したインターネットパネル調査。WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により計算テスト（子どものみ対象）および意識調査（保護者と子ども対象）に回答。
- (2) 株式会社スプリックスが実施した国際基礎学力検定TOFASを調査時期の期間内に受験した者のうち有志の学校。児童・生徒は学校の教室にて、保護者は自宅等で、WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により回答。

スプリックス教育財団および調査会社の説明

■公益財団法人スプリックス教育財団 概要

公益財団法人スプリックス教育財団は、社会的支援を必要とする学生に対して奨学金の支給を行うほか、教育に関する調査研究を行いその成果を広く一般に公表し、もって青少年の健全な育成に寄与することを目的としています。

名称：公益財団法人スプリックス教育財団
設立：2023年4月
代表理事：常石 博之
事業内容：奨学金の支給、調査研究
財団HP：<https://sprix-foundation.org/>

■株式会社クロス・マーケティング

株式会社クロス・マーケティングは東証プライム上場企業「クロス・マーケティンググループ」のグループ企業です。クロス・マーケティンググループが保有するリサーチ機能の根幹に位置し、データマーケティング&インサイト領域において生活者理解のためのマーケティングリサーチ事業、生活者データの効率的な収集・活用を推進するデータマーケティング事業を幅広く展開しています。

URL：<https://www.cross-m.co.jp/>

■国際基礎学力検定TOFAS

TOFASは、世界各国で実施されているグローバルなオンライン検定試験です。国際的な実施により、児童・生徒や教育機関にとって世界レベルでの比較が容易になり、グローバル化時代における貴重な知見となっています。実績：実施した国数51国、受験者数1500万、学校数2000校以上。現在20言語以上に対応しています。(2025年時点)

URL：<https://tofas.education/jp/>

■ニュースリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人スプリックス教育財団

担当：調査窓口 秦・三村

所在地：〒150-6222 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージSHIBUYAタワー22F

URL：<https://sprix-foundation.org/> E-mail：survey@sprix-foundation.org